

令和四年度 入学式 式辞

新入生の皆さん、春の花が咲き誇り緑の風が薫るこの岐阜県立国際園芸アカデミーへのご入学おめでとうございます。

ご列席の保護者の方々にも、心よりお祝いを申しあげます。

本日、皆様とともに入学式を挙行できますことは、誠に大きな喜びでございます。

長引く新型コロナウイルス禍の中で、感染拡大防止のため本校としても式そのものの規模縮小と時間短縮のため、来賓のご臨席もご遠慮を頂いております。

しかしながら新入生への祝福の気持ちは届けていただいているとともに、平素から本校の教育運営に多大なご理解とご協力、ご支援を賜っておりますことこの場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげます。

さて、国際園芸アカデミーは開校十九年目を迎え、これまで卒業生は、それぞれが生産法人、園芸流通・小売業、造園施工、公園管理などの幅広い分野において活躍してくれています。

これから皆さんが実習で扱う「花」は美しく人を癒し、愛でてくれます。だから人は「花」を咲かすことを一見目的のように思っています。実は植物の目的は「花」を咲かすことではなくその先の結実・・・つまり「実」をつくること。目的なんです。だから一見派手で麗しい「花」を咲かすのがピーク（最終目的）と人が目標を定めているのはおかしいのではないのでしょうか？美しさだけを求めている努力は自然界が笑っているかも知れません。

皆さん一人ひとりが二年間で「花」開くようにしていきますが、その先にある「実」を結ぶためであることを覚えておいてください。さて、その「実」は何であるのかを考えてみてください。

皆さんが学んでいく中では、いろいろな壁にぶつかるかもしれませんが、決してひるむ必要はありません。壁にぶつかったということはそこまで進んできたという証です。進んでいなければ壁にもあたりません。神はその人により越えられ

ない壁は与えないとも言われています。

- ・ つらい時があつたからこそ、幸せを感じられる。
 - ・ 裏切られて傷ついたからこそ、人に優しくできる。
 - ・ あのとき涙を流したからこそ、強くなれる。
 - ・ 自信がなくて不安だからこそ、頑張ることができる。
- どんな経験であつても人生に無駄なことは一つもありません。意味のないことも一つもありません。すべてに何らかの意味があります。

そして、これからの長い皆さんの人生、八十年として、人が一生で出会う数はどのくらいだと思いますか？何らかの接点を持つ人が三万人、親しく会話を持つ人はせいぜい三百人と言われています。人との出会いはまさに天文学的な奇跡なのです。すれ違った人、好きな人、嫌いな人、助けられた人、喧嘩した人、やさしい人、厳しい人、出会うすべての人が奇跡のように巡り合っているからこそ、一つ一つの出会いに感謝して、大切にしてください。

是非、国際園芸アカデミーでの2年間を大切にして、時間を無駄にせず勉学に励んでください。そのために私たち教職員が一丸となりサポートしてまいりますので、学生の皆さんは悔いのない充実した学生生活を過ごしてください。

最後に、新入生の皆さん一人ひとりが心身ともに健康で、新たな友人や二年生を始めとした多くの良き縁に出会い、有意義な学校生活を送られることを心から願ひ、私の式辞といたします。

令和四年四月十二日

岐阜県立国際園芸アカデミー 学長 今西 良共